

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

放射線療法の提供体制構築に資する研究（23EA1012）
（分担課題名：「あるべき放射線治療の提供体制」に関する患者と医療者の意識調査）

研究分担者 小宮山貴史、齋藤正英
研究協力者 若尾直子

研究要旨

高精度化が進む放射線治療においては診療の質の向上を図るため、患者のアクセス、病院の特徴や規模など、地域の状況に十分配慮した上で、がん医療における診療機能の集中、機能分担、医療機器の適正配置など、一定の集約化のあり方について検討されている。一方で治療を受ける患者の視点と、治療を提供する医療者の視点とで「あるべき放射線治療の提供体制」に関する意識が必ずしも一致していない可能性が考えられ、両者の乖離の有無や乖離点について知ることは放射線治療提供体制の整備方針の検討にあたり、大きな意義がある。

本研究は国内の放射線治療の提供体制について患者と医療者双方の視点からの意見を得て検討することで現状の評価・問題点が明らかになり、今後のより最適な放射線治療提供体制構築に向けた提言を行うものである。

A. 研究目的

患者の視点で考える「あるべき放射線治療提供体制」と、診療を担っている医療者が考えている「あるべき放射線治療の提供体制」について乖離の有無を明らかにし、乖離があればその乖離点について検討する。国内の放射線治療の提供体制について患者と医療者双方の視点からの意見を得て検討することで現状の評価・問題点が明らかになり、今後のより最適な放射線治療提供体制構築に向けた提言を行う事ができる。

B. 研究方法

Web による無記名アンケート（患者と医療者同一内容）を全国で展開し、意見を集約する。

アンケート結果の解析をおこない、今後の放射線治療の提供体制にむけての提言を作成する。

（倫理面への配慮）

無記名アンケートにて回答者の特定を不可にする。
アンケートの冒頭に本研究への参加の意思を確認する設問を置く。

C. 研究結果

現在2回目の倫理審査提出中である。
本年7月末までアンケート調査を行い、8月末までに集計・解析を行い、10月末までに提言案を作成予定

D. 考察

アンケート内容、方法の再検討が終わり、再倫理審査の最中である。

当初より大きく進捗が遅れているが、本年中に結果を出せる予定である。

E. 結論

現時点でアンケートを行っていない。本年中にアンケートを行い、集計・解析後、提言案を作成予定

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし